

第5回ひめじまちづくり喫茶のご案内

都市の魅力を発信するツールに「絵はがき」があります。海外を旅行した際に、行く先々で美しい絵はがきを買い求めるのは楽しいものです。ところで、私たちの暮らすまちの「絵はがき」事情はどのようなのでしょうか。大阪で既成の絵はがきを調べてみると、「大阪城」を定番として、道頓堀、通天閣など型にはまったものしかなかったようです。これら定番スポット以外にも、普通のまちなかに大阪の魅力はたくさんあるはずなのですが、残念ながらそういう絵はがきは売られていなかったのです。「それなら自分たちの手でつくってみよう!」と、2001年2月に「大阪ええはがき研究会」の活動がスタートしました。いろんな視点から見た大阪の魅力を写真やスケッチで切り取り、大阪に対する思いやメッセージを添えて、世の中に広く伝えていけるように仕上げた「ええはがき」をつくり、展示、販売していくことによって、大阪の魅力を発掘し発信していくことを目的に活動を展開しています。

第5回「ひめじまちづくり喫茶」では、その設立メンバーである藤川敏行さんをお招きし、活動の経緯や活動内容、都市に対するご自身の思いなどを熱く語っていただきます。またそれに先立ち、ええはがき作品展を同会場で開催していますので、ぜひお立ち寄りください。(期間:5/7(火)~5/17(金)・5/20(月))

■日時 2013年5月20日(月)19時~21時(話題提供60分・コーヒーブレイク10分・ディスカッション50分)

■場所 納屋工房(姫路市本町68 大手前第一ビル4階 TEL079-263-7878) <http://nayakobo.com/>

■ゲストスピーカーと演題

藤川敏行さん(大阪ええはがき研究会メンバー(竹中工務店勤務))

1964年大阪生まれ。1984年早稲田大学理工学部建築学科入学。建築~都市計画を専攻し、1990年理工学研究科修士課程修了。同年春、(株)竹中工務店入社。駅前再開発や大型商業施設など大規模プロジェクトを様々な角度から担当する一方で、都市環境デザイン会議や御堂筋まちづくりネットワークなどの活動にもかわり、まちあそびの傍ら、大阪ええはがき研究会にも初期メンバーとして参加。夜のまちを中心に、大阪のええ感じの場所の魅力発信を行なっている。現在、(株)竹中工務店開発計画本部所属。技術士(建設部門・都市及び地方計画)、一級建築士。

演題 『手づくり絵はがきによる埋もれた魅力の発掘と発信』

※第6回はゲストスピーカーに高見恒祐さん(都市大阪創生研究会メンバー(IAO竹田設計勤務))を招いて、さまざまな社会実験による都市の魅力づくりについてディスカッションします。(6/19(水)19時~、納屋工房にて)

パリの「カフェ」に代表される人々が語り合い、新しい文化を生み出す「場」として、日本には「喫茶店」がありました。姫路はかつては日本一喫茶店数が多い都市だったと言われており、まちづくり分野の新しい活動を創出する場になることを願って姫路まちづくり喫茶(ひめまち喫茶)とネーミングしました。

*「ひめじまちづくり喫茶(ひめまち喫茶)」の開催にあたって

都市を取り巻く環境は「ストック重視」「価値観の多様化」「都市間競争の時代」「市民参加の進展」など大きく変貌しています。そのような状況下、さまざまな都市で新しい方向性が模索されています。そこから浮かび上がってくる重要なポイントは、①固有の資源に着目した都市の魅力アップ、②自ら考え行動すること、③中身優先(枠組みはあとから)、④連携し共鳴すること、⑤そのための「場」づくり、と考えられます。

いま姫路では、駅前が生まれ変わりお城がきれいになるなどまちなかが新しくなりつつあります。このようにハードが新しくなる今、それに合わせてソフト(人の活動)にも新しい何かが必要と思われる。それは前述の状況から考えると、人レベルの出会い、刺激、交流から自律的に生まれてくるのではないのでしょうか。

「人の出会い→刺激→交流→自律的な新しい動き→姫路まちなかの魅力アップ」という仮説を立て、その第一歩として新しい人の出会いの場「ひめじまちづくり喫茶(ひめまち喫茶)」を開催します。定期開催のセミナー形式で、他都市で自律的なまちづくり活動を実践している人物をゲストスピーカーに招き、まちづくりに関する話題提供とディスカッションをおこなうというものです。姫路まちなかをフィールドに活動されている様々な活動グループの方々や活動を模索されている方などに参加いただき、次の展開へのヒントや新しいネットワークを生み出す機会にしたいと思っています。

2013年2月5日 チームひめまち喫茶

*主催 チームひめまち喫茶:小川陽平(小川農園)・篠原祥(大阪ガス)・長谷川香里(納屋工房)・平田千香子(播磨リビング新聞社)